

評価領域	教育課程
------	------

重点目標	地域と共に育ち、地域に感謝される教育活動の推進	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恵まれた自然環境と開校当初から理解ある地域との関係を大切にした教育課程を編成・実施している。 ・ 食品加工室や地域交流室等、特別教室が充実した新校舎の機能を活かした教育活動の改善を図っている。 ・ コロナ禍にあつて、地域に展開する学習活動に大きな制限や制約があり、感染予防対策を万全にした活動の工夫や創出が求められる。 	
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域との連携による地域貢献活動の推進と授業改善 2 農場、新校舎、地域連携によるチャレンジある教育活動の創造・実施 	
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 新型コロナウイルス感染症対策の観点から、生活単元学習の中核単元は、従前のイベント参加を目指した学習ではなく、地域との対話から互いのニーズを共有し、「地域貢献」の観点から学習活動を計画・実施する。 その成果を、公開研究会で報告し指導助言を受けるとともに、全校研究会等を通して授業の質の向上を図り、教育課程検討委員会等において教育課程の改善につなげる。 2 外部講師の指導や事業所との連携の下、作業班が協働しながら、新校舎の機能を効果的に活用し、学校特産品の開発、製作、販売を行う。また、早期からの職業教育の充実を図る。 	
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 小学部では、地域の専門家を招いた調理実習等を実施した。中学部では、大館市と木育で、大館食の祭典協議会と肉博、きりたんぼ祭りで連携し、イベントへ参画した。高等部では、市生涯学習課から依頼を受けて「ハチ公ダンス」の普及啓発に取り組んだ。 授業改善について、各学部1回の全校授業研究会と12月の公開研究会に外部指導者を招いて助言を得た。年間指導計画検討会や教育課程検討委員会を実施し、教育課程の評価・改善を図った。 2 調理室や食品加工室等の新校舎の機能を活用し、新たに調理に係る外部専門家の指導を得ながら「農場カレー」の開発に取り組んだ。新メニューは、農場で採れた野菜を使うとともに、陶芸班の皿や縫製班のランチョンマット、木工班のコースター、食品加工班のお菓子をを用いるなど、高等部作業学習製品を集約する形で完成し、地域に提供した。 中・高等部間で作業学習交流を行うとともに、中学部3年生の現場実習を行った。 	D

達成状況	<p>1 生活単元学習において、児童生徒が直接地域と対話し、ニーズを共有したり貢献活動を通して手応えを得たりできるよう計画した。その結果、生徒が課題に気付き、解決方法を話し合うなど、主体的・対話的に課題解決する姿がみられた。一連の学習活動を繰り返し経験したことで習得した知識や技能を活用して課題解決するなどし、学びが深まった。地域と連携する授業づくりを通して、各教科等の重点目標を押さえ、その内容の習得や習熟を図る手立てを見いだした。</p> <p>2 農場、新校舎、地域連携によるチャレンジある教育活動が高等部各作業班の製品や取組を結集し「農場カレー」として形にできた。コロナ禍で、地域へ提供する機会は限られたが実施し、好評を得た。その他、各作業班では、新製品の開発や常設販売への対応を通して、製品の品質が向上した。</p> <p>中学部3年生は広大な農園での現場実習を通して、働く厳しさと達成感を実感し心身共に大きく成長した。</p>	D
-------------	---	----------

自己評価	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">(評価)</td> <td style="text-align: center;">(根拠)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価において、「地域と共に育ち、地域に感謝される学校づくりができたか」の設問に対し、97.4%の職員が「よかった」「まずまずよかった」と回答した。97.3%の保護者が「はい」「どちらかといえばはい」と回答した。 </td> </tr> </table>	(評価)	(根拠)	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価において、「地域と共に育ち、地域に感謝される学校づくりができたか」の設問に対し、97.4%の職員が「よかった」「まずまずよかった」と回答した。97.3%の保護者が「はい」「どちらかといえばはい」と回答した。 	C
(評価)	(根拠)					
A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価において、「地域と共に育ち、地域に感謝される学校づくりができたか」の設問に対し、97.4%の職員が「よかった」「まずまずよかった」と回答した。97.3%の保護者が「はい」「どちらかといえばはい」と回答した。 					

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">(評価)</td> <td style="text-align: center;">(意見)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で交流機会が少ない状況だが、地域のニーズを捉え、教育課程を工夫して取り組んだ。 生徒のニーズに応え、新しいことにチャレンジする学校の姿勢がよい。 同世代だけでなく、異年齢との交流も考えてほしい。交流の成果の確認と発展が図られると思う。 </td> </tr> </table>	(評価)	(意見)	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で交流機会が少ない状況だが、地域のニーズを捉え、教育課程を工夫して取り組んだ。 生徒のニーズに応え、新しいことにチャレンジする学校の姿勢がよい。 同世代だけでなく、異年齢との交流も考えてほしい。交流の成果の確認と発展が図られると思う。 	C
(評価)	(意見)					
A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で交流機会が少ない状況だが、地域のニーズを捉え、教育課程を工夫して取り組んだ。 生徒のニーズに応え、新しいことにチャレンジする学校の姿勢がよい。 同世代だけでなく、異年齢との交流も考えてほしい。交流の成果の確認と発展が図られると思う。 					

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 「地域と共に学び、地域に感謝される教育活動」の拡充を図り、児童生徒の自立と社会参加を促す実践を充実させる。また、その効果を授業研究を通して明らかにし、効果的な単元づくりの要点としてまとめる。 農場や新校舎、地域人材を活用した作業学習を一層推進し、学校特産品の質の向上と新製品の開発を目指す。また、幅広い年代との多様な交流機会や常設販売を通じた手応えのある学習や、中学部段階からの現場実習など、職業教育の充実を図る。 	A
------------------------------	--	----------